

【文法のまとめ】 発信するための基礎文法が充実!／



佐藤 哉二

『アクティブ ジーニアス』から6年経過した、後継の『プラクティカル ジーニアス』はそれなりの成長をしていなければならない。いつまでも旧態依然としてはいられない。

英語を、第二言語ではあっても、自分の言葉として使える能力の必要性がますます叫ばれている。学習用英和辞典もコミュニケーションのツールとしての工夫が求められる。

声高に叫ばれている「英会話力」といえどもやはり基礎は英文構成力であろう。

「語法のジーニアス」と認められて久しいが、個々の語句の usage 解説にとどまらず、文法のしくみを関連づけ、高校生を対象とした「文法のまとめ」（以下「文法編」と表記）を充実させるという案が提出された。単なる付録ではなく、英文法の基礎を網羅した内容を目ざした。

本体と文法編の位置づけについて。旧版でも文法編に25ページを当てていた。項目別の簡潔な内容であったが、それなりの評価はいただいている。新版では、生徒の「なぜ」を先取りした解説をたくさんとり入れた。そのため42ページという、英和辞典収録としては類を見ないボリュームとなった。

文法用語はなるべく用いず、しかもやさしく読めるようにと記述にも配慮したが、これはユーザーの評価を待つしかない。

更なる工夫として、辞典本体から文法編へジャンプし、参照できるよう、参照記号➊をあちこちに付した。引き始めは面倒がらずに「忠実に」その箇所へジャンプし目を通すことを繰り返せば、

苦労せずに頭にインプットされるはずである。

文法編を通読してほしいという希望はもちろんあるが、1項目読み切りを心掛けた解説にした。英文法には例外も多いが、高校生のための基本文法であるから、必要ないと思われる付随的な説明は割愛した。忘れたらその文法項目に返って繰り返し読むことで基本文法が習得できると考える。

前口上が長くなった。紙幅が許す限り本体と文法編とをどのように有機的につないでいるかの例を述べることにする。

■同意表現のニュアンスの差を明示

naïve に「It's naïve of you [You are naïve] to take him seriously. 彼の言うことを真に受けるなんて君は単純だね」という例文がある。言い換えの豊富さが「ジーニアス」の特徴で、2通りで言えることが示してある。そして大切なことだが、形の違いによるニュアンスの違いを知っていれば適切な場面で使うことができる。そこで日本語訳の後に➋文法17.5と参照先が付されている。そこには次のような説明がある。

「当人の性質について言うのではなく、その場での行為をほめたり、けなしたりする言い方。特に本人の前ではいきなり You are careless to do と切り出すより It is careless of you to do の方が好まれる。」

親が子供に言い聞かせるときなどは前者を使い、やんわりと矛先をゆるめることが相応しい相手には後者を使えばよいことが知れる。

また、卑近なことだが、この言い換えは大学入

試問題としても頻度の高いものでもあり、同じグループの形容詞を20以上まとめている。これらの語からも17.5を参照していくうちに自ずと2文の使い分けができるようになるはずである。

■本体に散らばった断片を一本化

文法事項でこれが重要あれが大切ななどと順位をつけてもせんないことだが、仮定法はそれでもやはり生徒が理解しにくいものの一つであろう。

その難しさには時制を使い分けることもあるが、仮定法の存在理由が十分に理解されないこともあろう。例えば If I were you, I would quit my job. と言われたら、「もし私があなただったら私は職を辞めるのだから」と呑気なことを言われているが実は、「おまえ、やめろよ」と言われているのである。そのあたりの説明を十分にしておきたい。その意図もあり文法編では仮定法にかなりのスペースを割いた。仮定法の文が含まれる意味も例示しておいた。

また、仮定法について英和辞典で調べたければ、if を引けば大方は出ていそうだが、そうでもない。英和辞典では仮定法過去については were, 仮定法過去完了については have, if 節が句や節に相当する表現は to (不定詞), without, otherwise などに分散している。さらに仮定法で用いられる助動詞過去形もそれぞれの見出し語で解説されている。独立した1冊の文法書であれば仮定法の章で網羅できるのだが、英和辞典ではあちこちに散らばってしまう。それがそれぞれのエントリーから文法編へジャンプすることにより、仮定法という大きなプールを泳ぎ一巡することが可能となった。

■個別の注記から1区分上位のルールへ導入

on ㊦ 3 [所持・着用] …につけて、…の身につけて (↔ off) || *put [have] a ring on one's finger* 指輪をつける [している] 《◆ one's finger を省略すると on は副詞》

この注記から put a ring on と言えることがわかるのだが、これで終わりとすると put A on だけの理解になってしまいいかにももったいない。そこで㊦文法18.7を付し、「前置詞と同形の副詞」へ導き一般化できる語法であることを知らせた。

次の例では指輪は指にはめるのに決まっているのだから、どの指かを言うのでなければ目的語は切り捨てるほうが簡潔でよい。

She put a ring **on** her little finger. (彼女は小指に指輪をはめた) [前置詞]

She put a ring **on**. (彼女は指輪をはめた)
[副詞]

そして、目的語が切り捨てられた前置詞は副詞辞となり、動詞の直後に移動することもある。

She put **on** a ring.

これにより、

They opened the gate and the procession passed through. (彼らが門を開けると行列が通って行った)

の through にも㊦文法18.7と参照先が付されているので、語は異なるが1つの語法にまとめられることに気づくであろう。

■スリムになった本編

例えば have には一般動詞と助動詞があり、『アクティブ』でも5ページ近くを割いている。助動詞としての have は完了形の説明だがこれも現在完了形、過去完了形、未来完了形に3大区分される。そして面倒なことに、過去完了形の中に「仮定法過去完了」が紛れ込む。英和辞典の宿命だが言葉のデパートであるから避けられない。

これを、文法編に「完了形」で1章、「仮定法」で1章を設けることにより、本体の助動詞 have の項がスッキリした。ほとんど用例だけになった。紙幅の都合で全部をご覧いただけないが、現在完了形の一部を掲載しておく。

I [現在完了]

1a [完了・結果] [have [has] (just) done]

ちょうど…したところだ || The clock *has just struck* ten. 時計がたった今10時を打った。
[have [has] already done] すでに…した || The bell *has already rung*. 鐘はすでに鳴ったよ。

[Have [Has] A done... yet?] もう…したか || 対話 “Have you finished your homework yet?” “Yes, I have [No, I haven’t].”
「もう宿題は終わりましたか」「はい、もう終わりました [いいえ、まだ終わっていません]」。
[have [has] done] …した、してしまった、している《◆何かをした結果今どういうことになっているのかを述べる》|| The two nations *have established* diplomatic relations. その2か国は外交関係を樹立した。

本編では用例だけだが、文法編では現在完了が伝えようとする含意までも《 》を用いて1文ごとに触れた。「現在完了は have+過去分詞」で終わらせたくないからである。

The taxi *has arrived*. (タクシーが到着しました)《「タクシーが今ここにいる」、「さあ行きましょう」、「早くしなさい」》

Have you ever *been* to Yokohama? (横浜へ行ったことがありますか)《「横浜への行き方を教えてほしい」》

生徒がいつも《 》を補って、含意を理解できるようになることが意図である。

その他の工夫としては、それぞれ用例にたどり着きやすいように代表的な完了形の形を [have [has] (just) done] などガイドとして立てたので調べやすくなった。用例だけでなくもう少し理解を深めたいければ⑤文法6の該当セクションにジャンプすることになる。

従来検索しにくかった have gone to A, have just been to A などとも have の成句にまとめた。

このようにしてスリムになり、余裕の出たスペースにはまた新たな工夫をこらした。その新企画については本号の他の記事をご覧ください。

■同じ用法の語を一覧表示

文法編のもう一つの特徴は、例えば「同格の that 節」の項で、その that をとる名詞の主なものを紙幅の許す限り挙げたことである。22.5を見ていただければお分かりのように50語が並んでいる。

このほかには、無生物主語の構文で用いられる動詞、目的語に不定詞をとる動詞、目的語に動名詞をとる動詞、両方可能で意味もほぼ同じ動詞、意味が異なる動詞、easy 型の形容詞、kind 型の形容詞などの主な語が、検索しやすいようにアルファベット順に並んでいる。

■新しい情報

8品詞の中では、名詞はとかく分類に重点が置かれがちである。物質名詞、集合名詞などは数の呼応にもかかわりおろそかにできないが、名詞表現という構造に関わる情報も大切である。the influence of West upon Japan などの主格・目的格関係が1項目を当てて解説されている。

また、the riverside hotel murder といった簡潔な表現法にも注意を向けさせるべく、「名詞の形容詞的用法」の項が設けられている。

㊦㊧の名詞に関しては、『ベーシック ジーニアス』で採用した「work … ㊧仕事 ㊦作品」などの表示を一覧表にし、日本語からは「詩 … ㊦a poem ㊧poetry」なども一覧表にした。このような使い分けがあることに気づいてほしい、正しく使い分けができるようになってほしい、という希望をこめた分類表が14.3にある。

『Practical Genius』の名のごとく、知識としての文法ではなく、伝えたいことを伝えるための基本文法が盛り込まれている。学習者が文法を超えてことばの面白さにも興味をおぼえられるような工夫をいくつか紹介した。

(さとう さいじ・元埼玉県立高等学校教諭)